

令和7年度練馬区立幼稚園検討委員会（第4回）の要点

日	時	令和8年3月11日（水）	
時	間	18時30分から19時30分	
場	所	練馬区役所本庁舎19階 1906会議室	
出	席	者	学識経験者、区立幼稚園 利用保護者、練馬区私立 幼稚園協会、区立幼稚園 長、区職員

開会

1 園児数の減少に対する施策の整理について

【委員からの主な意見】

- 他区で3年保育をしている区立幼稚園で充員率が高いところの理由を分析することで、想定できるものがあるのではないかと。
- （事務局）他区の区立幼稚園の充員率は、3年保育では30%台や70%というところもあり、2年保育の実施園でも20%や60%ぐらいのところもあり、各区の状態によっても様々。
- 3年保育は8区あり、平均で充員率53%程度。2年保育は9区あり、平均で充員率34%程度。平均すると差がある。また、長時間の預かりなどのデータは出ておらず、そのようなデータがあると、より比較がしやすい。
- 区によって幼児教育体制等の事情が違うため、他区の区立園の充員率を比較しても、さほど意味がないと思う。

練馬区は昔、私立幼稚園が60園程度あったが、今はもう38園しかない。子どもも減り続けているし、私立園も減り続けているという状況では、区立幼稚園が3園から2園になるというのも当然の流れではないかと思う。

練馬区は、昔から私立幼稚園が幼児教育を担う部分が圧倒的に大きかったと思う。我々もその流れを大事にしつつやってきたが、結果38園しか残っていない。

3年保育の実施などは必要だと思うが、一方で、区立幼稚園を2園に集約するということは前提として考えていきたい。

- 例えば、新宿区の私立幼稚園は少なく、行政が区立幼稚園に力を入れている。そういっ

た区では、区立幼稚園の充員率は上がると思う。

- 板橋区は2園から1園の統廃合によって充員率が上昇している。私立幼稚園は経営母体がそれぞれ独立しており、経営が厳しくなったときには廃園の道をたどることが圧倒的に多い。統合など、地域情勢に合わせて学校の形態を変えていける柔軟性は公立幼稚園の方が大きい。

「統廃合」はネガティブに聞こえるが、一定の健常児比率を保って教育の質を上げるという視点に立てば、3年保育、長期休業中の預かりと、施設数の再配置という両輪が回ることで、環境を改善させる要素になると感じる。

- （事務局）この会議で意見を一本化するつもりはない。様々な意見を踏まえて、最後は区として今後のあり方を検討していく予定。様々なご意見をいただきたい。
- やはり、私立幼稚園が昔からある区、公立幼稚園が公立小学校と一緒に敷地に配置されているような区、板橋のように統廃合で区立園が1園になった区など、区によって様々な状況があると感じている。

ただ、板橋区では、統廃合した後に保護者ニーズに応える施策を展開している。充員率の高い他区ではそういった対応をしており、ニーズへの対応も重要だと考える。

園の集約について、私たちは本当に辛い思いで聞いている。しかし、公立幼稚園だけではなく、全体の少子化という流れの中で仕方がないのかなということは感じる。

- 板橋区では、2歳児の誰でも通園制度を始めるなど、2歳児保育にも力を入れている。そこも充員率に影響していると考えている。
- 区立幼稚園では、保育の必要性がある子に対して、2歳児1年保育の場所を提供しており、その点も検討の1つの余地になる。
- 本園では、2歳児1年保育の場所を提供している。利用園児は、来年度私立幼稚園へ行くという子もいると聞いており、3年保育の前倒しは非常に意味がある。
- 検証や実証という意見もあったが、集約することは決め、その上で、3年保育や長期休業中の預かり保育の開始時期は早める、という資料になっているが、その認識でよいか。
- （事務局）3年保育や長期休業中の預かり保育を先んじて実施し、その状態を検証した上で、集約を判断するという事は、今の園児数の減少ということを考えると、時間的に猶予がないと考えている。
- この件については、保護者のニーズとか、子どもたちの数とか、入園児数を増やすという話だけではないと思う。

文科省では、0歳児からの教育の在り方という点を検討している。

2年保育ではなくて3年保育にすることの意義は、入園児を増やすためではなく、子どもたちの育ちの連続性を教育機会として保障していく点に強くある。

国の動きに合わせて、幼児教育を公的に担う機関として3年保育を行うという区立幼稚園の先生方の共通理解が重要。

保護者ニーズや入園児数のみが運営方法の検討理由とならないよう、確認のため伝えさせていただく。

- 保育園と幼稚園を選ぶ保護者の大きな違いは、経験させることが多くあるかどうかという点だと考える。3年保育というのは、そういう意味でも有効だと思う。ふれあい保育や未就園児プログラムに参加すると、多くの体験をさせたい保護者が参加して、そのまま幼稚園を選ぶという傾向が見られる。

3年保育にすることは保護者自体も目指しており、前倒しはとても意義がある。

ぜひ前倒しに関しては、もう今から検討していただきたい。

- 補足だが、保育所の子どもに関しても、経験をしていくことに関しては、遊びを中心としたというところには変わりはない。

親が子どもを見るということの見方を一緒にモデルとして支えていくようなことを、3年保育で前倒しすることによって、保護者の方たちにとっては子育てのヒントになると思う。

子育ての中で子どもの育ちを見るということは、十分に区立の先生方がやってきた。3年保育になるからこそ、発達過程の中で親御さんに合わせて伝えていけることだと思う。

- 3園から2園への集約は、数字で決めるのではなくて、質を考えた結果としてあるべきと思う。

公立幼稚園が果たしていく役割を広報していくというのではなく、ありのままを伝え、保護者の方の選択肢が増えるような前向きな形で集約を進めてほしい。時間との闘いなのではないかなとも思うが、タイミングや打ち出し方は、また検討する必要がある。

- (事務局) 区立幼稚園の園児数の減少傾向は、非常に激しいと感じている。ご意見も頂きながら、今後のスケジュールは整理していきたい。

- 質を高め合う中で、保護者が就園先を選択できる状態がベストだが、リスクがある子や障害がある子の受入れについて、区立幼稚園しか選択できない子もいる。

そうなると、その子は現状2年しか選択できない。3年保育の機会を公平にするという意味でも、3年保育は早期に実施してほしい。

- 私立幼稚園も存続のために様々な事業をしている。単純な保育時間の延長や、預かり日数の拡大は、本来子どもがそれを望んでいるわけではないが、親や社会のニーズとして必要だということで苦渋の決断をしている部分もある。

区立園での3年保育については、充実した教育のためには異論はない。ただ、長期休業中の預かり保育の実施や、時間延長があると、子どもの負担を考えて、行事の数や正課

の内容を見直さざるを得ない。区立園での教育を継続するために、預かり保育の拡大をして園児数を確保したが、逆に通常のカリキュラムを縮小せざるを得ない可能性もある。教育の質を高めることと預かりの拡充は、相反するところもあるため、保護者ニーズを第一に考える必要は、区立園にはないと思う。

一方、区立園はなくしてはいけないと思う。施策検討は難しい課題にはなると思うが、区のほうで適正に判断し、今後の施策を考えてほしい。

- 以前から言っているが、常に経営を考慮しなければならない私立幼稚園と比べると、区立幼稚園は教育の理想を追求できる機関。区立幼稚園にしかできないことを、存続させていくべきだと思っている。

保護者の経験談から、区立幼稚園の価値を非常に感じている。障害のある子の早期就園という点からいうと3年保育は必要だと思うが、保護者のニーズを第一にし、サービス業化してはいけないと思う。区立の先生方が考える教育のあり方を地域の保護者たちに伝えていくことも先生方の役割ではないかなと思う。

- そう考えると、「区立幼稚園にしかできないことを実現、具現化していくための3園から2園への集約」ということかと思う。「存続のため」という表現は見直しが必要かもしれない。
- 私立園38園の存続という点を考えると、区立園が3園から2園に集約されないのであれば、3年保育などの他の施策も受け入れられない。
- （事務局）私立幼稚園と区立幼稚園、それぞれ役割、特徴が異なる。区立幼稚園しかできないことは、当然区立幼稚園の役割として担っていかなければいけない。区としても、単にニーズだけではなくて、課せられた役割をどう行っていくのかという観点で今後の検討を行いたい。